

「北九州響灘洋上ウインドファーム」竣工式典を開催しました

— 国内最大規模の洋上ウインドファームの完成を祝う —

4月22日、当社が出資する「ひびきウインドエナジー株式会社」（福岡県北九州市、代表取締役社長：三根 浩二）が運営する「北九州響灘洋上ウインドファーム」（以下、本ウインドファーム）の竣工式典を執り行いました。

本ウインドファームは、単機の設備容量9,600kWの風車25基、合計最大出力22万kWの発電設備から構成され、現時点において国内の洋上風力発電所として最大規模を誇り、国内洋上風力の総出力の約4割を占めています。2026年3月2日より営業運転を開始しております。[\(2026年3月2日プレスリリース済\)](#)

竣工式典は、安全祈願祭、設備の船上視察会、ならびに祝賀会の三部構成で実施いたしました。

安全祈願祭は響灘に立ち並ぶ25基の風車を臨む高台で行われ、今後の本ウインドファームの安全運転を祈念して玉串が捧げられました。また、神事後の主催者挨拶では社長の三根浩二が「地元にも永く愛される発電所になるように安定的に運転を続ける」と申し述べました。



船上視察会では風車の周りを航行し、参加者の皆さまからは「想像以上の迫力を間近で感じられた」「圧倒的なスケールだ」との感想が寄せられました。



祝賀会には、事業にご協力くださった地元の皆さまや関係者等、300名を超える方々にご出席いただきました。北九州市の武内和久市長からは「最先端の技術を結集した25基の風車は、北九州と我が国の新たなシンボルとなる。ここに至るまで幾多の困難を乗り越えてこられた皆さまとその第一歩を祝うことができ感無量」と、本ウインドファームへの期待や長年にわたる関係者の尽力に対する感謝の言葉を賜りました。



当社は、2050年経営ビジョンとして「みらいを拓く、世界有数のグリーンエネルギー企業」を掲げています。私たちは、地域の皆さま、お客さま、パートナー企業の皆さまとの対話を大切にし、九州電力グループの一員としての責任を果たしながら、地域とともに成長する九電みらいエナジーを目指してまいります。